

くつきの森 ニュースレター

第56号 2026年1月10日発行
NPO 法人麻生里山センター
〒520-1451 高島市朽木麻生443
Tel. 0740-38-8099
Fax 0740-38-8012
E-mail: asosatoyama@zb.ztv.ne.jp

TOPICS

麻生里山センター20周年

麻生里山センターがNPOとして「くつきの森」の運営に関わって20年。2025年11月15日、これまでお世話になった方たちを招いて「記念セレモニー」を開催しました。春の「ユリノキまつり」に続く記念イベント第二弾です。

当日は、招待者48名、セレモニーを盛り上げるために来ていただいた方やスタッフなどが33名、合わせて82名がやまね館に集いました。「森林体験学校」で頑張ってくれた元職員、「やまのこ」の元指導員や古くからのサポート一、久しぶりに足を運んでくれた会員の方など、懐かしい同窓会のようでした。

山本代表理事のあいさつ、太陽生命・陶山執行役員など来賓による祝辞のあと、理事の海老澤が写真で「麻生里山センターの20年」を振り返りました。

あらためて思うのは、じつに多くの人に支えられ、たどり着いた20年だったということです。でも、始まりの1~2年は不安と試行錯誤の連続でした。

25年つづいた「朝日の森」が2003年に閉鎖。森の荒廃を心配した住民の声を受け、当時村長だった玉垣勝さんが森を引き継ぐことを決断して始まったのが「くつきの森」でした。

NPO発足を前に、森の未来について熱く議論してくれた朝日の森時代の学



生ボランティアたちがいました。そんな若い応援者に地元有志のNPOは力をもらいました。森の発足時からずっと山の手入れに参加してくれている「薪ネット」は「同士」のような存在です。

NPOの2年目、太陽生命とのつながりが生まれました。一緒に森づくりを考えましょう、という「パートナー」関係がずっと続いている。「森林体験学校」と「やまのこ」もこの年、地域のサポートや協力者に支えられて始まりました。NPOにとって未来に向けて新しい種が播かれた転機の年になりました。

とまどい、喜び、悩み、安堵し、なんだかんだあった20年でした。それでも、まがりなりにも20年、森を、みんなが安心して触れることのできる状態に守ってこれたことが私たちの誇りです。

午前の部が終わって昼食会。近隣のいくつかのお店にお願いして鯖そうめんなど自慢の料理を届けてもらいました。

そして午後の部。草津の児玉さん率いる「ちんどんや こうあん一座」、地元の演芸グループ「たま一ず」、コーラス

の「グリーンハーモニー」、「東京から来たジャズバンド+ボーカル Kumi Flow」の方たちに、楽しく賑やかに20周年を祝っていただきました。

20年前、「くつきの森」に関わることになった地元の諸先輩方。団体名を「里山センター」と名付けました。きっと、里山はみんなで汗を流して手入れすることで守られる、そんな里山から人は多くの恩恵を受けることが出来る。「くつきの森」はずっと、そんな里山であって欲しいと願ってのことだと思うのです。

——去年今年貫く棒の如きもの(虚子)。

そんな20年前の志を心に、新しい年を迎えることを願っています。

なお20周年の記念行事に当たり、太陽生命(株)から多大な支援をいただきました。心より感謝申し上げます。(え)



記念Tシャツ
セレモニー当日ぎりぎりで届きました。ビザしか食べないシカ。森は食べないですね、というメッセージを込めたものです／デザイン：加藤みゆき

太陽生命 どんぐりプロジェクト 2025年

どんぐりを播いて育てて植えて、ふるさとの自然や森への共感の心を育んでもらおう始まった「どんぐりプロジェクト」。今回で15年目です。2年前からは中学1年生も加わり、一段と成長した活動になりました。

3年生(4名)は、くつきの森でクヌギのどんぐりをポットに播きました(10/23・木)。どんぐり、豊作でよかったです。

4年生(4名)は学校で、3年生のときに播いて育てた苗を大きなポットに植え替え



ました(10/21・火)。

5年生(9名)は教室で森についての「お話」(10/21・火)。話の構成、もっと工夫がいるなあ、といつも気がかりです。

そして6年生(7名)は太陽生命の森林(もり)で植樹。お母さんたちも参加しました。学校でのセレモニーではいつも、3年生からの振り返り写真にほろりとさせられます。

中学1年生(9名)はたっぷり1日プログラム。1年前に植えた苗木の「下刈り」をしたり、今回は、森林組合の仕事についての「お話」、プロによるスギの伐採デモ、チェーンソー体験など、森林組合がたくさん協力してくれました(10/22・水)。新しい関わりを得て、どんぐりプロジェクトの未来が楽しみです。

(え)

イベント報告

2025年10月~12月

きのこ大好き！

10/11(土)

森の自然講座／きのこ秋

穏やかな秋の季節を迎える、雨を合図に現れるきのこたち。佐藤先生のきのこの観察会は常連のかたも増え、ちびっこも増え、マイ図鑑を持参する子も。先頭に立ってきのこを解説する先生の姿は束の間、「先生、これは?」「先生、はやくきて！」子どもに囲まれ、先生は引っ張りだこ。きのこ大好き！子どもが見つけた多種様々なきのこ、大人も充実の観察会でした。(ゆ)



新発見 11/8(土) 森のいやし～和みのヨーガ～

「秋の穏やかな日差しの中で体をゆるめられて最高に楽しかったです」「お天気に恵まれ気持ちのよい青空の中、色づいたユリノキの下での和みのヨーガ癒されました」と、いつも大好評の和みのヨーガ。鎗分(やりわけ)先生の優しい語り口のゆったりヨーガと、焼きたてピザでみなさん今回も大満足な様子でした。ピザはスタッフ(み)特製のジェノベーゼソースもトッピングし、オリジナル秋のきのこピザにしました。次回3/14(土)にも、特別開催します。特製焼きたてピザも付きますので、ぜひご参加ください。(い)



今年も無事終了！

11/22(土)

未来の森づくり

平成25年度から始まった「未来の森づくり事業」今年の活動が事故もなく無事終了することができました。チェンソーを使って木を倒す作業、実は様々な労働の中でも最も事故率が高い職種のようです。参加いただいた皆さんが細心の注意を払いながら作業していただいたおかげと感謝申し上げます。今年も事業は続きますが引き続き安全作業でよろしくお願ひいたします。(わ)



賑やか 11/29(土) 森の自然講座／冬の森

～この季節だって森歩きに最適！～

くつきの森は木の実が大豊作。野間先生と歩いていたら、あの実この実が気になり、話が弾んでなかなか前に進みません。野鳥の観察も交えながらゆっくり森歩き。落葉した冬の森は寂しいけれど、見方によっては賑やかなものですよ。(み)



お家でも 12/13(土) 里の手しごと／クリスマスリース

～サンタが森にやってくる♪～

森の自然物などを使ってのリース作り。子どもより必死に作るお父さん。工夫に工夫を重ねる常連さん。リボンを使ってのキラキラリースに笑顔の女の子…。お家でも森の自然を感じるステキなクリスマスになったかなあ。(み)



初企画 12/20(土) 里の手しごと／ミニ門松

手づくりの門松でお正月を迎えよう！里の素材、竹を使った初企画。簡単そうにみえて、細くて艶やかな青竹を鋸で切るのは難しい。参加者には二人一組で力を合わせていただき、会話も弾んで楽しい時間となりました。マツやナンテンをあしらい、個性光る門松が完成。なかには、先の細いところを使ったミニミニ門松も。きっとすぐに、年神様の目に留まることでしょう。(ゆ)



秋の受入れ

お箸づくり体験

10/17(金)

守口市のみなさん

姉妹都市である大阪府守口市が毎年開催している高島市との交流ツア。今年はその訪問先にくつきの森を選んで頂き、抽選で選ばれた（大人気のツアードラゴン）24名の皆さん、杉のお箸づくりを体験されました。天気も良かつたので、体験後はユリノキ広場をご案内。「空気が違うわ～」「また来ます！」と、短い時間でしたが森の魅力を存分に感じてもらえたようです。（い）



つながり 竹中工務店 見学/来園

くつきの森の建物施工が竹中工務店さんというつながりから、今年の春社員の方数名がくつきの森へ来園。その後も何度も来て頂くうちに話が広がり、11/21には兵庫県川西市にある竹中工務店 清和台の森へ見学に。12/8には竹中工務店設計部他のみなさんのが来園。来年度からの新たな取り組みに向けて、よい関係が築かれつつあります。（い）



↑竹中工務店 清和台の森にて

大阪関西万博で展示された「森になる建築」のプロトタイプ（試作品）も置かれていました

慣れた手つきで

10/18(土)

滋賀県環境保全協会

滋賀県内企業の社員の皆さんによる森林整備作業です。クヌギを育てている植樹祭会場の下草刈りを実施していただきました。皆さん坂を上って作業場所に到着するや否や、草むらの中にサッと溶け込み、慣れた手つきで作業をしていただきました。これからも引き続きよろしくお願いします。（き）



見事なチームワーク

11/20(木)

大和ハウス工業

ラクウショウの木の周辺はかつて水田で、現在も軽トラや重機の接近を阻むやつかない場所。そこに湿地帯を好むハンノキが成長して日差しを妨げるようになつたので、ハンノキを伐倒して運びだそうとしたのですが、切った木が泥の中に埋まつてしまい大変なことに。そこで、毎年くつきの森で森林整備作業をされている大和ハウス工業の皆さんにお願いして、見事なチームワークで引き出してくださいました。ありがとうございます。（き）



次の5年

「森林公园くつきの森」の 新しい扉が開きます

令和7年12月高島市議会定例会にて、特定非営利活動法人麻生里山センターは令和8年度から5年間の「高島市森林公园くつきの森」の指定管理者としてご承認をいただきました。皆さんにはこれまでの私たちの活動を支えていただきにあつく御礼を申し上げるとともに、これからも引き続きご支援をいただきますようよろしくお願い申し上げます。（き）



誰も気づいていないらしい

～やまね館ホールの写真～



やまね館ホールの南側のガラス壁には、くつきの森で撮影してきた写真が掲示されているのですが、最近それが大幅に入れ替わっていることに気づかれましたか？これも麻生里山センター20周年記念事業の一環なのです。くつきの森の四季折々の景色を、こだわりの視点やタイミングで切り取った写真の数々を、ぜひお楽しみください。（き）

やまのこ



やまのこ指導員・長澤ゆかり

やまのこ勉強会

9/24(水)

「自然のおもしろさの伝え方」をテーマに、やまのこサポーターの皆さんと勉強会を開きました。講師は、やまのこ事業担当の元県職員で現在はアドバイザーを務める山本綾美さん。子どもが興味関心を持ちやすい動物だけでなく、草木も同じように魅力を感じてもらえる「伝え方」を学びました。

知識は蓄えておくけれど、相手に合わせて盛り上げることに使う。主役を子ども



●あれこれ

Re-Woods 木とくらす一日

10/18(土)

~木が気になりきっと木がスキになる~

高島市森林組合のイベントに、スギ葉の草木染めを出店。午後のダジャレ大会には高島市の今城（いまき）市長が「今、来た今城（いまき）です！」と登場。子どもたちの「リスがリンスした」「スギを食べスギた」といったダジャレをみんなで楽しみました。（み）

もに譲り、子どもの知っていることや子どもの出番をつくる。そのようなポイントをおさえ、「じゃ、やってみよう」と登場したのはやまね館の剥製！思ひがけない素材に戸惑いながら、果敢に取り組む皆さん。野外実習ではサポーターと児童役を順に実践を重ね、笑い声や質問が飛び交う賑やかな場となりました。

勉強会のあと「なるほど！」と思うことがたくさん。だけどやってみると難しい。「もっとやりたい。」そんな声がありました。「伝えるから伝わる」これからいやまのこが楽しめます。

やまのこの林

例年より遅い時期の実施となった秋のやまのこ。見るもの触れるものが少なくなるかなと思いきや、とんでもない。落ちてくる樹々の葉に手を伸ばし、今ある自然にちゃんと気がつく子ども達。移りゆく季節を肌で感じられたやまのこでした。

そんなやまのこの林も土地利用の背景により状態は様々です。雑木林では、成



木から供給されているはずの実生は育っていません。疎になった林はますます荒れて寂しくなっていきます。「10年15年後、やまのこの林がどんなふうだといいだろう。」崩れたバランスが人の介入により少なからず補われるよう、目的を据えて立地や樹種に目を向け、種子採りや植樹を始めました。その過程にある獣害柵もまた、子どもと考えるきっかけを与えてくれます。やまのこの林のこれからに想像をはたらかせていきたいと思います。



たかしま市民活動フェスタ

11/24(月・祝)

市内で活動する市民団体やグループと来場者との交流を通して、市民活動を知ってもらうきっかけづくりを目的に毎年開催されています。今回は森のオリジナルグッズ販売や写真の展示などでくつきの森をPRしてきました。20周年記念の「しかTシャツ」も販売！その後、「鹿切りピザ衛門」という新キャラクターも登場し、Tシャツ販売のPRに熱が入ってい



ます。まだご存知ないという方は、くつきの森のInstagramまたはFacebookをチェックしてみて下さい！（い）

くつきの森 行事カレンダー 1月～3月

- 1/31 (土) スノーシューとフトケア
- 3/7 (土) 木のおもちゃと絵本の日
- ☆1/23～3/16 の期間中、やまね館ホールに木のおもちゃがやって来ます！

●森の編集部(あいうえお順)

- (い)石賀和 (え)海老澤秀夫 (き)木下彰
- (み)加藤みゆき (ゆ)長澤由香里 (わ)若林穂

●編集後記

2026年、くつきの森は一面真っ白の雪景色からスタート。森の中に残されている動物たちの足跡に「こんなところを歩いてるんや！」と、普段は見えない彼らの気配を感じつつ、来年度のイベントチラシに載せるイラスト、次は何を描こうかなと考え中です。（い）